

平成25年度 長野市地域包括支援センター運営協議会 報告書

| | |
|-------------|--|
| 日 時 | 平成25年7月17日(水) 午後1時30分～2時55分 |
| 会 場 | 長野市役所第一庁舎8階第二委員会室 |
| 出席者 | 委員14人(欠席 宮下委員、野口委員) 事務局12人 |
| 次 第 | <p>1 開 会 南部地域包括支援センター 西沢所長</p> <p>2 あいさつ 小山会長 駒津保健福祉部長</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1)平成24年度事業報告・収支決算について</p> <p>(2)平成25年度事業計画・収支予算について</p> <p>(3)事業内容の評価及び今後の委託先法人等について 説明：中部地域包括支援センター 古田所長 介護保険課 矢島部主幹 (別添「資料1」～「資料3-2」参照)</p> <p>(4)今後の地域包括支援センターの体制整備等について 説明：介護保険課 矢島部主幹(別添「資料4」参照)</p> <p>(5)介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について 説明：中部地域包括支援センター 戸谷係長(別添「資料5」参照)</p> <p>(6)認知症啓発月間について 説明：介護保険課 矢島部主幹(別添「資料6」参照)</p> <p>3 閉 会 南部地域包括支援センター 西沢所長</p> |
| 質 疑 応 答 要 旨 | |
| 委 員 | <p>平成24年度事業報告・収支決算について</p> <p>平成25年度事業計画・収支予算について</p> <p>事業内容の評価及び今後の委託先法人等について</p> <p>資料1の6ページ5(1)のケアマネジャーに対する研修会の中で山梨学院大学の竹端准教授に何度か講演をお願いしているようだがどのような方が。また、地域のケアマネジメントをしていく中でいろいろ教えていただける方であればこのまま継続して教えていただくといいのではないかと。</p> |
| 事 務 局 | <p>国の研修等で評判がよかったので研修の講師をお願いした。いろいろな考えの先生がおり、偏ることを避けたいので平成24年度で一旦終了とさせていただいた。</p> |
| 委 員 | <p>認知症サポート医の会が全国で出来てきているが、長野市では一度も連絡会が開かれていない。もっとサポート医達が協力できる体制づくりをしながら認知症に対応していったらどうか。またサポート医の活動の場がない中で、今後どうやって認知症に対応していったらいいか、いい案があれば教えていただきたい。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 認知症対策の核となる認知症疾患医療センターが長野市にない。このセンターができれば連携がうまくいくとは思うが、市でも認知症の支援を進めるうえで苦労している。サポート医の会については、市内4医師会で何らかの連携をとることは可能だと思うので、市も仲間に入れていただきながらいい方法を探っていきたい。 |
| 委員 | 資料5ページ4(5)の権利擁護に関する関係団体との連携についてだが、コミュニケーションを取っただけではなく、実際のケースに共同作業で連携して対応したのか。 |
| 事務局 | 関係団体については、何かあったときに連携できる関係を作るために設けた高齢者虐待防止ネットワーク運営協議会のメンバーである。個別の事例で連携し合うことはある。 |
| 委員 | 認知症のケアについて、医療の立場からと介護の立場からとでは違った話が聞けると思う。相談が医療機関だけでなくグループホーム等でもできるようになればいいと思う。 |
| 事務局 | 県で職種別の研修をしている。市も協力していきたい。 |
| 委員 | 地域包括支援センター（以下「包括」）の運営方針のなかで「高齢者が健康で自分らしい生活を継続することができるように支援する」とあるが、施設入所者が経済面等の理由から自宅に戻るかどうかについて、関係者が包括に相談したところ、方法を教えただけでそれ以上の相談には乗ってもらえず、施設との連携も何もしてくれなかったという話をお聞きした。それではあまりに一方的である。それが総合窓口の仕事なのか。どこの包括でもこんな対応をしているのか。 |
| 事務局 | 包括では、個々の事情にもよるが、一番はご本人の希望がどうなのかをお聞きして具体的に相談に乗るようにしている。関係する機関と連絡を取りながら施設入所者や経済的な面などの相談にも乗っているが、地域での生活を支援するということが前面に出るため、在宅生活以外の相談には介入しづらい部分がある。 |
| 委員 | どの職員が相談を受けても相談者に満足いただける対応ができるように研修等を充実させることについてはどう考えているのか。 |
| 事務局 | 現在はケアマネ研修、包括ごとの研修、職種ごとの研修等行っている。個々のレベルについてはご意見をいただく中で研鑽しながら充実させていきたい。 |
| 委員 | 今日の会議にも研修を受けている委託包括の職員が出席しているが、研修を受けてレベルは上がってきていると感じるか。また研修に対する要望はあるか。 |
| 事務局 | 職員の異動などでむらはあるかもしれないが、職員同士の連携や情報の共有、さらに包括会議などを経て、かなりスキルアップをしてきていると感じる。 先程の包括での対応の件についてだが、包括では地域で暮らす方を最優先に対応していて、施設での問題の調整を図ることまでは手に負えていないのが現状である。地域ケア会 |

| | |
|-----|--|
| | 議等でもっと多くの職種で話し合いの場を作っていきたい。 |
| 事務局 | 包括で相談を受けて3年になるが、経験が積み重なってスキルアップしていると思う。先程の包括での対応の件については接遇面でもっと丁寧な対応が出来ればよかったと思う。包括の中で接遇研修の場があればいいと思う。 |
| 委員 | 先程の包括の対応の件だが、包括の職員と施設にいる施設相談員がもっと連携を取れば解決していくと思う。 |
| 委員 | 自己評価の低い包括へ市から何かアプローチはあるのか。 |
| 事務局 | 前年の評価から1割程度の変動があった包括は事情を聞いている。今回変動があった包括は直営だったため、しっかりと対応させていただく。 |
| 委員 | 在宅介護支援センター（以下「在介」）についてはどうか。 |
| 事務局 | 在介は包括へつなぐ窓口の部分についてのみの評価となる。大きな開きがあれば話を聞くこともあるが、今回はなかった。 |
| | （事務局案どおり承認） |
| | 今後の地域包括支援センターの体制整備等について |
| 委員 | 将来的に直営の包括はなくなるのか。 |
| 事務局 | 平成18年に直営3箇所スタートした包括だが、在介から包括に移行していただく中でようやく体制が整ってきた。これからは直営でなければ出来ない行政の役割を果たしていく中で、職員を分散しているよりも集約して取り組んだ方がいいのではないかと検討している。直営の包括のあり方については来年度策定する平成27年度からの3年間の計画を作るにあたり、検討していく中でまた方向をお示ししたい。 |
| 委員 | 最後には中部1箇所になるのか。直営の包括を1つは残してほしい。 |
| 事務局 | 今の時点で箇所数は決まっていない。もう少し検討させていただきたい。 |
| 委員 | 包括をどんどん統合や分散等すると利用者の負担が大きい。人とのつながりなどをもっと加味して体制を整えてほしい。地域の方が利用しやすいように事前に少しずつ説明をするなど考えていただきたい。 |
| 事務局 | 10月から開設する包括については、10月からいきなり引き継ぎとならないように、今担当している包括の職員と10月から新しく担当する包括の職員の両方が地域の会議に出る |

| | |
|--|---|
| | <p>などして、地域の皆さんと関係づくりをしているところである。</p> <p>(事務局案どおり承認)</p> <p>介護予防支援業務の指定居宅介護支援事業所への委託について</p> <p>(質問なし)</p> <p>(事務局案どおり承認)</p> <p>認知症啓発月間について</p> <p>(質問なし)</p> |
|--|---|